

## 2014年（平成26年）糸島市10大ニュース

No.	項目	説明
1	月形新市長のもと新市政がスタート	2月の市長選により、月形祐二氏が当選。糸島市になって2人目の市長が誕生した。「豊かさ実感」をスローガンに、新市政がスタート。市長公約実現化プランを策定し、校区まちづくり懇談会を全15校区で開催。市長自ら公約実現プランをアピールし、市民と直接意見交換を行った。
2	福岡マラソン2014開催	1万人以上の参加者があり、97パーセントという高完走率で成功裏に終わる。多くの市民の協力による沿道での声援やフィニッシュ会場での「おもてなし」は反響を呼んだ。大きな事故もなく、安全な大会が運営できたことの意義は大きい。
3	さまざまなスポーツで糸島出身者が大活躍	<ul style="list-style-type: none"> <li>●山田真子さん、女子ミニフライ級で世界王者に。</li> <li>●夏の全国高校野球で大阪桐蔭高校優勝。主将は糸島出身の中村誠くん。</li> <li>●木原裕香さん、バトントワーリングで世界一に。</li> <li>●卓球とバスケットボール糸島市選抜チームが全国大会優勝。</li> <li>●浦正樹くん、少林拳で精鋭杯世界選手権大会へ</li> </ul> ※アスリートの活躍は、糸島市でスポーツを頑張っている子どもたちに夢と希望を与える。
4	「一蘭の森」が完成	6月1日、工場操業を開始し、1日最大9万食のラーメンの麺やスープを製造。7月には「一蘭の森」がグランドオープン。100人を超える市民の新規雇用もあり、働く場の創出に一役買った。
5	市税等収納率が県内第2位、国保税第1位の成績	平成25年度現年度決算において、福岡県内60市町村のうち、市税等の徴収率が第2位、国保税が第1位の成績をおさめ、2年連続好成績となる。
6	市内バス料金が200円均一料金に	1月20日より、利用しやすい料金制度に変更。これにより格段に便利になったと感じる市民も多い。徐々に利用者が増えている。
7	農林水産関係が元気いっぱい	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「糸島市鳥獣害防止対策協議会」の取り組みが農林水産省の生産局長賞を受賞</li> <li>●糸島市農業委員会と藤井農業委員長が農林水産大臣賞をダブル受賞</li> <li>●糸島漁協青壮年部が水産庁長官賞を受賞</li> <li>●竹林整備促進事業開始</li> <li>●松林保全のためのアダプト制度を開始</li> </ul>

		●一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンと業務連携協定を締結。糸島農業経営塾のセミナー開始。
8	道路整備が進み、より便利に	●福岡前原道路のETC化 ●都市計画道路下新開線新久保田橋の開通 ●国道 202 号前原西中学校入口交差点周辺整備事業完成 ※市民だけではなく、観光客にも使い勝手がよい道路は、糸島に多大な影響を与える。
9	全国自治体初！東京事務所サービスの活用	糸島市の認知度が拡大中の関東圏で、現状を定着、さらに拡大させるため、株式会社日本雇用創出機構が自治体向けに提供する東京事務所サービスの活用を開始。バーチャルな拠点を整え、物販、旅行、交流会等々、総合的かつ継続的なシティセールスを展開する。自治体向けの東京事務所サービスを活用するのは糸島市が全国初である。
10	「伊都の杜」の分譲が始まる	前原東土地区画整理事業において、新たな行政区が誕生することになり、「伊都の杜」と命名。10 月から 31 戸の分譲が開始される。 最大 1,000 戸 3,000 人の受け皿であり、糸島市の人口増の起爆剤として期待大。

■ 10 大ニュースの選定基準

- 1 市民の暮らしに身近で共感を与えたもの
- 2 先進的な取り組みで、他に例を見ないもの
- 3 市民の将来へ夢や希望を与えるもの
- 4 市政へ大きな影響を与えた事象
- 5 その他、市政への理解と関心を深めたもの